

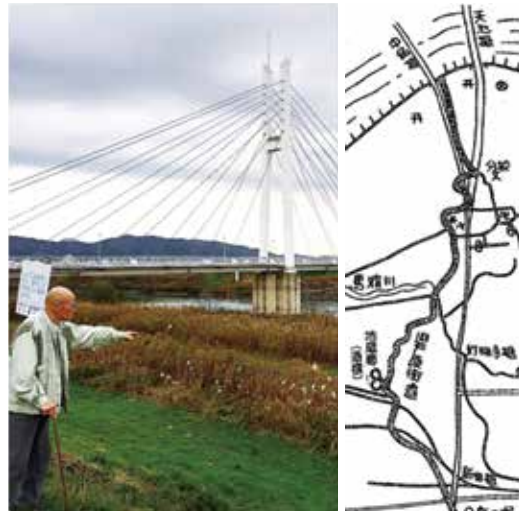
明新地区の誇り

暮らしやすい 住みたくなるまち めいしん



北陸道道標地蔵は、現在の芦原街道（北陸道）から西側100mの場所にあり、古くは「三国道」或いは「中角街道」と言われていた北陸道への道標である。北陸道は藩政時代には城下から川北へ行くには最も重要で人の往来が多く、現在も住宅内を通っている。

日野川との合流地点に近い九頭竜川左岸に渡河集落として舟橋新が発達した。写真の人物が指で指す方向に「中角渡船場」があったと伝えられている。「朝倉始末記」には「中角渡り」とあるように、明治8年に中角橋ができるまでは芦原・三国方面へ行くための渡船場として街道交通の要衝であった。



新田神社は新田義貞の兜が発見された場所に石碑と堂が建てられ「新田神社」と呼ばれるようになった。現在は、例祭が行われる場所としてはもとより、「新田塚」という町名に使用されていることから地域住民に親しまれている。新田神社の先を流れる「赤川」は、新田義貞が戦った際に血が流れて赤く染まったと伝えられており、経田から九頭竜川に合流する「馬渡川」は「新田軍藤島の戦い」で馬を渡したことが由来になっている。地区のたい焼き屋「たい夢」では、「新田塚焼き」を販売している。



明新公民館 館長
板谷 悌三さん

館長の板谷さんは、「明新地区は福井市で一番の人口を抱え著しく発展しているが、新旧の町が混在しており、歴史をたどるといろいろな発見がある。我が地域の歴史を後世に伝えられるよう更に研鑽を続けていきたい」と話す。

明新公民館

住 所／福井市灯明寺町35-1-1
電 話／0776-22-7880
交通機関／京福バス「二の宮4丁目」
バス停から徒歩3分